



芋畑スグスク(6/15・平磯一美乃浜学園)



夏の沿線はイベント盛りだくさん

夏季の周辺道路は渋滞が続きます。お出かけは湊線で！

湊線沿線に夏のイベントの季節がやってきました。おもなイベントを表にまとめると、7～9月までほぼ毎週末は湊線沿線で何らかのイベントが開催されています。那珂湊地区では2年ぶりの八朔まつりが8月23(土)・24(日)に釈迦町年番でおこなわれます。市外の人にも見物してもらおうと、24日早朝、那珂湊漁港での御神輿御浜入りに向けて、海浜鉄道では勝田駅4時55分発、那珂湊駅5時10分着の早朝臨時列車の運転が決まりました。夏季の那珂湊地区周辺道路は、とくにお盆の前後を中心に例年大渋滞になります。お出かけには湊線のご利用が便利で確実です。

7/12(土)・13(日)に平磯海岸で海浜鉄道で行く磯遊びの参加者募集



昨年の磯遊び参加者



保険料込みの参加費は、おとな3,000円、こども2,000円で、湊線の1日フリー切符と、おやじの会が出版する屋台の500円分の食事券が付きます。応募はQRコードの応募フォームから。抽選結果は7月6日18時までに発表されます。

美乃浜学園おやじの会では海浜鉄道と共催で、7月12(土)・13(日)に開催する「磯遊び号で行く平磯海岸で磯遊び2025」の参加者を7月3日(木)まで募集しています。

対象は小学生で保護者同伴が必要。朝8時に勝田駅東口に集合し、平磯駅から徒歩で海岸へ。9時40分頃から磯遊びを開始し、13時半に自由解散。



磯遊び参加者募集のチラシ

応援団通常総会を開催

6月5日、市内の春日ホテルで2025年度のおらが湊鐵道応援団通常総会が開催されました。総会には那珂湊地区の自治会長、商工会議所関係者など理事らの出席に加えて、来賓として柳生修ひたちなか商工会議所会頭、吉富耕治ひたちなか市副市長、吉田海浜鉄道社長のご臨席をいただきました。

応援団の25年度の活動は、延伸実現に向けて全面協力し、一人でも多く、一回でも多く利用される市民鉄道を目指すとし、総額107万2千円余りの事業予算のほか、一部役員



1日フリー切符の割引補助事業は来月中旬に終了する見込みです

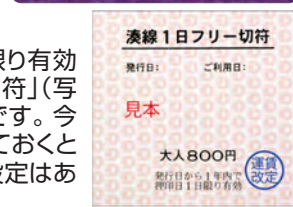
4月から市の補助事業により割引販売になっている湊線1日フリー切符は、7月中旬ごろに補助枠上限に達する見通しになり、現在大人600円・小人300円の販売額が、通常の大人1,000円・小人500円に戻る予定です。

【裏ワザ】通常の1日フリー切符は発売当日限り有効ですが、湊線応援券付き「特製硬券1日フリー切符」(写真)は、発行日からご利用する日まで1年間有効です。今後湊線を日帰りで利用する方は、「買いため」しておくとお得です。ただし、硬券フリー切符には小人の設定はありません。

22都府県から246枚の応援絵手紙を車両内に展示



今月から9月23日(火)まで湊線のおもな車両(5両)に、絵手紙246枚が展示されています。湊線絵手紙応援隊(山口浩子代表)が募集した22都府県179名の皆さんの力作で、5月28日に山口さんが那珂湊駅に届けに来ました。2013年から続く今回のテーマは「うれしいね工事認可」と「ようこそキハ100形」です。全国から応募のあった素敵な絵と心温まる応援メッセージをぜひご覧ください。



駅的环境整備ありがとうございます

駅名	7月6日(日)	8月3日(日)
中根	柳沢美田多・相金・三反田班	
高田の鉄橋	柳が丘・関戸町・田中町自治会	
那珂湊	小川龍之口町	神敷台部田野小谷金十三奉行
殿山	七丁目・牛久保町	和田町・殿山町
平磯	平磯・平磯清水町自治会	
磯崎	磯崎町自治会	
阿字ヶ浦	阿字ヶ浦自治会	

※朝8:30(高田の鉄橋駅は8時、中根駅は7時半)から実施。
※7/12(土)はハマギク花壇の下草刈りです。

輸送人員過去最高も658万円の赤字 海浜鉄道2024年度決算

海浜鉄道の2024年度決算は、輸送人員が開業以来最高の118万2,442人(前年比1.2%増)、旅客運輸収入も1億9,354万円(同3.7%増)と回復基調で順調に推移しましたが、営業費用が人件費や燃料費、シャトルバスの運行費などの増加により、単年度収支はマイナス658万円と、5期連続の赤字になりました。輸送人員は定期利用が前年比1.7%減でしたが、定期外利用利用が同6.8%増となり赤字幅が縮小。黒字化へ助走をつける年となりました。



野菜&特産品の朝市 毎月第一日曜日に開催

■7月6日(日) 午前9時～11時頃まで
■那珂湊駅1番線ホーム ※ホームへの入場は無料です。

湊線一番の`お得意先、那珂湊高校と海洋高校の校長先生お二人に寄稿をいただきました。



心残りは「おさむ」に会えなかったこと

茨城県立那珂湊高等学校長 井上宏孝さん

平成の中頃まで那珂湊二高に勤務していました。年に数回、添乗指導ということで、殿山駅から勝田駅まで、下校する生徒と一緒に湊線に乗りました。当時は車内で迷惑行為を働く生徒がおり、一般の利用者から苦情の連絡を多く受けておりました。教員が乗っているとわかると少しはおとなしくしてくれたのですが、隣の那珂湊駅から乗ってくる他校の生徒はそんなことわかりませんから、迷惑行為をする生徒もいました。それを見た湊二高生が「おい、あれはどうなんだよ!」という感じでチラチラと目配せをしてくるのが痛かったですね。



でも、往復の際に眺めていた車窓の眺めは、指導の緊張だけでなく、日頃のストレスまで癒やしてくれる素敵なものでした。地理歴史科の教員なので、沿線の地形などを何気なく眺めていると、時を忘れてその成り立ちに思いを巡らせていたものです。もう一つ、湊線と言えば、心残りなのが駅猫「おさむ」に会えなかったことです。元来鉄道好きな私ですが、このようなアイドルがいるとそれだけで駅を訪れてみたいという気持ちになります。(うさぎを飼っていたので、うさぎ駅長「もっちい」がいた山形鉄道宮内駅には、今でも時々訪れています。)'おさむ'は現在でも、那珂湊駅の駅名標の中と、鉄道むすめ「殿山ゆいか」の肩の上でその姿を見ることができます。でも、ありのままでいてもらいたいという海浜鉄道や応援団の方々の思いからか、役付きになることなく、ただただ駅の利用者から愛されていた猫がいる、当時の駅の空気感を共有してみたかった思いです。

何気なさの中に、なかなかの魅力がある車窓風景と空気感、本校も含めた地域とのつながり、そして全国の方々に訪れてみようと思わせる仕掛け、それら全てが湊線の魅力なのかなと考えています。車通勤の現在ではグッズを買って推すことくらいしかできませんが、末永く愛される湊線でありますよう応援しております。

湊線は地域とのつながりや学びの場を提供

茨城県立海洋高等学校長 岡田浩さん

ひたちなか海浜鉄道は、私たちの地域にとってなくてはならない重要な交通インフラであり、地域の活性化に大きく寄与しています。特に高校生にとってこの鉄道は、通学だけでなく、さまざまな活動や交流の場としても欠かせない存在だと感じています。



まず、ひたちなか海浜鉄道は、通学の安全と利便性を確保しています。学校からの距離や交通手段の選択肢が限られる中、鉄道は安定した運行を提供し、多くの高校生が安心して通学できる環境を整えています。これにより、遅刻や交通事故のリスクも低減され、学業に集中できる土台となっています。

また、鉄道沿線には豊富な観光資源やレジャースポットが点在しており、地域の魅力を高校生に伝える絶好の機会となっています。例えば、沿線の海浜公園や、歴史的な名所を訪れることで、地域の文化や自然に触れることができ、学びの幅も広がります。

さらに、ひたちなか海浜鉄道は、各種イベントの開催にも積極的です。季節ごとの祭りや鉄道開業記念祭、地域の特産品を紹介するマーケットなど、多彩な催しが行われており、これらは高校生にとっても貴重な体験の場となっています。友人と一緒に参加したり、地域の人々と交流したりすることで、コミュニケーション能力や地域愛を育むことができます。

地域の未来を担う高校生にとって、ひたちなか海浜鉄道は単なる交通手段を超えた、地域とのつながりや学びの場を提供しています。今後も安全運行とサービスの充実を図りながら、地域の活性化と高校生の成長を支える存在であり続けてほしいと願っています。